

# 第11次印西市交通安全計画

～交通事故をなくし、安全で安心して暮らせる印西市をめざして～

(令和3年度～令和7年度)を策定しました

## 目標

- 交通事故による死者数ゼロを目指します。
- 負傷者数については、前年と比較し、着実に減らすことを目指します。

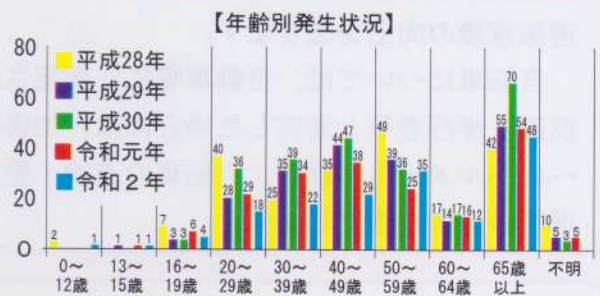
市では、交通安全対策基本法の定めるところにより、県の策定する計画に基づき、交通安全対策全般にわたる総合的な施策の展開を図るため、5年ごとに交通安全計画を策定しています。

この度、「第11次印西市交通安全計画（令和3年度～令和7年度）」を策定しました。

## 重点項目

### ①高齢者の交通安全対策の強化

交通事故全体が減少傾向であるなか、高齢者が関係する交通事故は依然として多く発生しており、全事故において高い割合を占めていることから、対策の更なる強化が必要となっています。

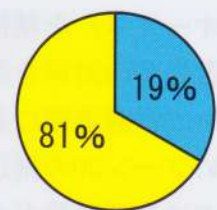


### ②自転車の安全利用対策の強化

自転車の安全利用に関しては、平成24年に「印西市自転車の安全・安心利用に関する条例」を制定し、平成28年には、成人に対するヘルメット着用努力義務を加える改正を行い、交通ルール遵守と正しい交通マナーの向上に取り組んできました。

しかしながら、自転車乗車中の交通事故件数は、依然として交通事故全体の約2割を占めており、また、近年、自転車利用ニーズが高まっていることから交通事故防止対策を推進する上で自転車の安全利用対策を更に強化する必要があります。

【本市の自転車乗車中の交通事故件数割合（過去5年）】



### ③悪質・危険な運転者対策の強化

近年、車間距離不保持などのいわゆる「あおり運転」や運転中の携帯電話等使用のいわゆる「ながら運転」による交通事故の発生が、社会的に注目を集め、道路交通法の一部改正により、自動車や自転車での「あおり運転」や「ながら運転」に関する規制が強化されました。

また、重大な事故を引き起こす飲酒運転は、未だに社会問題となっており、市内においても依然として飲酒運転による交通事故が発生しています。

そこで、妨害運転や飲酒運転などの悪質・危険な行為を行う運転者等への対策を強化します。



# 4つの視点

## ▶高齢者・子供の安全確保

高齢者の交通安全を図っていくためには、高齢者が日常的に利用する機会の多い医療機関や福祉施設等と交通安全活動を連携して実施することや高齢者の事故が居住地の近くで発生することが多いことを踏まえ、身近な地域における生活に密着した交通安全活動を推進します。

幼児から心身の発達段階に応じた交通安全教育を推進するとともに、未就学児を中心に子供が日常的に集団で移動する経路の安全確保のためのキッズ・ゾーンの設定や通学路等における安全・安心な歩行空間の整備、スクール・ゾーンの設定等を推進します。

## ▶歩行者・自転車の安全確保と遵法意識の向上

「人優先」の考えの下、未就学児を中心に子供が日常的に集団で移動する経路、通学路、生活道路、市街地の幹線道路等における歩道の整備等を行い、安全・安心な歩行空間の確保を一層積極的に進めるとともに、横断歩行者が関係する交通事故を減少させるため、ゼブラ・ストップ活動等の推進を通じて、運転者に横断歩道に関する交通ルールの再認識と歩行者優先の徹底を周知するなど、運転者の遵法意識の向上を図ります。

自転車については、自動車等に、衝突された場合には被害者となることが多い反面、歩行者等と衝突した場合には、加害者となりうることから、全ての年齢層へのヘルメットの着用、自転車の点検・整備、自転車損害賠償保険等の加入の促進等の対策を推進します。



印西市マスコットキャラクター  
いんざい君

## ▶生活道路・幹線道路における安全確保

自動車の速度抑制を図るための道路交通環境の整備を進めるほか、可搬式速度違反自動取締装置（可搬式オービス）を積極的かつ効果的に運用するなど、交通取締りの実施、安全な走行方法を普及するための啓発等の対策を講じるとともに、幹線道路を走行すべき自動車が生活道路へ流入することを防止するための幹線道路における交通安全対策及び交通流の円滑化や、生活道路における交通の安全を確保するためゾーン30の推進など、総合的な対策を一層推進する必要があります。

過去に交通事故が多発している箇所や、今後、交通事故の発生が懸念される箇所を選定し、各関係機関・団体等と道路交通環境面について現地の診断、対策の検討及び、その対応策についての整備・改善を行い、実施箇所の事故減少率の推移等による効果測定を行う「共同現地診断」等により、引き続き交通事故の防止に努めます。

## ▶地域が一体となった交通安全対策の推進

重大な交通事故を引き起こす飲酒運転の根絶を目指すには、家庭、職場のほか、飲食店、酒類販売店の理解と協力が不可欠であり、地域が団結して、飲酒運転の根絶を図っていく必要があります。

地域活動を担う団体・企業等が、市と連携し、啓発・教育など地域に根差した活動を自律的に行うことが重要です。そのため、地域が一体となった交通安全活動の促進を図ります。



印西市マスコットキャラクター  
いんざい君